

1 情勢報告

① 農産物事故ゼロを目指して

J A土佐くろしお大間出荷場でキャンペーン



J A土佐くろしおでは、農産物の品質・衛生管理レベルを高めるため、高知県版GAPに取り組み、農産物の生産から出荷販売までの全ての工程の点検・見直し・改善を進めています。

3月29日には、消費地での異物混入・農薬残留事故の発生件数ゼロを目指すキャンペーンをJ A土佐くろしお大間出荷場において実施しました。当日は、J A、高知県園芸連、振興センターが連携して、出荷に訪れる生産者に対して、農産物事故ゼロに向けた呼びかけや啓発パンフレットの配布を行いました。

この取り組みにより、生産者個々との対話ができ、農産物事故ゼロ意識のさらなる向上につなげることができました。

これからも、GAPや農産物事故ゼロに向けた取り組みを進めていきます。

② こうち型集落営農で、米ナスの栽培が始まる

芳生野百石営農生産組合



定植している担当農家

芳生野百石営農生産組合は、平成22年度から地域の基幹品目である米ナスの栽培を計画しています。この3月には関係機関の支援を受けて、芳生野地区に11aのハウスが完成し、土作りなどの栽培準備を進めてきました。

普及センターからは組織運営管理や栽培計画を支援し、4月16日には、米ナスの定植作業が行われました。JA津野山の営農指導員から講習を受けたあと、葉の枚数を数えて苗の向きを確認しながら、慎重に作業が行われました。

振興センターは、今後も、米ナス講習会の開催など、組合員の栽培技術の習得と、その栽培の成功を目指した支援を行っていきます。

③ ニラの高品質多収生産を目指す

大野見支部ニラ部会現地検討会を開催

育苗床での生育等の確認状況



中土佐町大野見地区では、ニラの高品質多収生産による経営安定を目指し、振興センター、J A、篤農家（営農アドバイザー）による全戸巡回する栽培技術研究会「学び・教え合い」（まとまりのある産地育成事業）を行っています。

4月15日には、育苗技術中心の検討会を行いました。新規にニラ栽培に取り組む人や昨年育苗に失敗した人もおり、振興センター、J A、篤農家から灌水や雑草対策についてのアドバイスを行いました。また、今年初めてマルチ後定植をする人もいるため、来月、窪川地区へ行くことになりました。

振興センターは、今後とも篤農家、J Aと共に高品質多収生産のための取り組みの支援を行っていきます。

1 情勢報告

④信頼されるユズ産地へ

J A津野山ユズ生産組合総会が開催される



JA津野山ユズ生産組合の総会が4月12日に開催されました。参加者は関係機関を含め60名を超えていましたが、総会はスムーズに行われました。また、JA馬路村の協力で、21年度は栽培面積14ha、部員数243名で、出荷量約20tの実績が達成されました。22年度の目標として、JA馬路村に信頼される産地作り、出荷のトラブル“ゼロ”、生産量の安定確保の3つが上げられ、生産者の意識向上が図られました。

振興センターからは、ユズの現在の状況等を説明し、情報の共有化を図りました。

今後、JA馬路村のパートナーとして、関係機関と連携して、ユズの産地作りを進めていきます。

⑤夏秋シシトウ高品質・多収栽培を目指して

JA四万十シシトウ研究会大野見支部栽培講習会の開催



4月12日に、JA四万十シシトウ研究会大野見支部の栽培講習会が開催され、定植前の準備から定植後の初期管理について検討しました。「スムーズな活着と初期生育の確保」をテーマとし、普及センターからは定植方法、仕立て方法、初期の整枝・誘引方法等説明し、それについて1つ1つ確認しました。また、安心・安全なシシトウ生産のため、防除基準の確認と、生産履歴の記帳・提出を呼びかけました。

夏秋シシトウは4月下旬から雨よけ栽培、5月中旬から露地栽培で定植が始まります。

⑥ミョウガの傷みや腐敗を減らします

J A土佐くろしおミョウガ部会出荷目慣らし会の開催



4月12日～23日にかけて、ミョウガの出荷目慣らし会がJA土佐くろしお大間及び浦ノ内・上ノ加江集出荷場で行われました。

JA販売課からは、ラップを包装する時にミョウガの先端がトレーに噛み込み品質低下や腐敗の要因になっていることが報告され、この解消のため5月1日の出荷分からトレーの詰め方を変更することを確認しました。作業効率の低下などの不安はほとんど聞かれず、スムーズに移行できる見込みです。

また、振興センターからは夏場に発生しやすい腐敗の対策を説明し、JA営農課から農薬の適正使用を啓発しました。7月には再度、ミョウガの腐敗防止対策の指導をJAと連携して行う計画です。